

人形劇サークル

『我楽多（がらくた）』

人形劇サークル「我楽多(がらくた)」は、子どもからお年寄りまで様々な人が楽しめる公演をボランティア活動として継続されてきたグループです。

今回は、「我楽多」の皆さんに、日頃の活動やそれにかかる思いについてお話を聞かせていただきました。



——いつごろから活動をされているのですか？

我楽多は昭和 56 年 6 月に結成されました。今年で 40 年以上の歴史があります。当時は十数人のメンバーでしたが、現在は 4 名です。

——現在の活動のスケジュールはどのようになっていますか？

基本的には毎週火曜日に集まって活動しています。人形を作ったり、台本を考えたり、練習したりしています。今年の 4 月から新メンバーが加わり、観客の視点での意見をいただけるようになって、とても助かっています。3 人だけでは気づけなかった点を「そこは分かりづらい」と指摘してくださるので、表現に磨きがかかります。

——人形劇の制作はどのように行われていますか？

物語はメンバー全員で話し合いながら考えています。

「こういう子を出したい」などのアイデアを出し合いながら、みんなで作っていきます。過去の経験から、怖いオオカミなどの登場で子どもが泣いてしまうことがあったため、あまり怖くなりすぎないようにしたり、悪者を作らないようにしています。

また、人形の代わりにペープサート（紙で作った人形）を作って、ストーリーの動きを考えることもあります。頭で考えるだけでなく、実際に動かしてみても子どもたちの反応を想像しながら作るようにしています。小さい子どもは人形が動いていないと飽きてしまうので、その点は特に意識しています。

——ひとつの演目を完成させるのにどのくらいかかるのですか？

だいたい1年ほどかかります。文化プラザで例年2月に開催されるプラザフェスティバルに向けて、制作しています。最後は毎回バタバタして「本当にできるのかな」と思いながらも、なんとか間に合っています。大変ですがそうして作っていく過程がとても楽しいです。

——講演ではどのような内容を披露されているのですか？

基本的には新しく作った人形劇を1年間通して披露しています。それ以外にも、グラス演奏やパネルシアター、紙芝居、ペープサートなども行います。

高齢者の施設でもよく反応していただけます。言葉だけでは伝わりにくいことも、見て分かる表現を意識してい

るので、年齢を問わず楽しんでもらえています。昔は「子どもの気分になって見てください」とお願いしていましたが、最近では「どうぞご覧ください」と自然に楽しんでもらうようにしています。



——社協ボランティアセンターからの依頼を受ける際に、伝えてほしいことはありますか？

やはり場所の広さは大事です。事前に下見に行って確認させていただき、上演できるかどうか判断しています。また、火曜日はもともと活動日なので、火曜日に予定していただけると助かります。

依頼のタイミングについては、1～2か月前に言っていただけると予定が立てやすいのでありがたいです。

——活動していてよかったと思う瞬間はどんなときですか？

やはり「楽しかった」と言っていただけることが一番嬉しいです。

0～2歳くらいの小さなお子さんにも、人形劇はしっかり伝わっていると感じます。先生方は「まだ分からないかも」とおっしゃることもありますが、子どもたちはじっと見つめてくれるんです。

——今後、挑戦してみたいことはありますか？

「辞めない」「やりたい」という気持ちはずっと持っています。長年続けているので、活動が生活の一部になっています。でも、本番の前には毎回「できるかな」「ドキドキするな」と不安になるんです。

もちろん、失敗もあります。人形を落としてしまったり、登場人物の人形を忘れてしまったこともありました。以前のプラザフェスティバルではその場で台本を変更してなんとか対応しました。「なんとかなるものだな」と思いましたし、そんなハプニングも含めて楽しんでいきます。

——最後に、ボランティアに興味のある方へメッセージをお願いします。

力を入れすぎず、自分がやりたいと思えることから始めれば良いと思います。

私たちの場合は、おしゃべりをしたり、何かをしたりするついでに人形劇をしているくらいの気持ちでやっています。話すことがなかったら、人形劇でもしようかって言えるのがいいんです。また、「子どもたちに悪い言葉は使わない方が良いね」などという思いを共有できる関

係が築けていることも、長く続けられている理由のひとつだと思います。



（彦根市社協 地域づくりボランティアセンターより）

今回、ボランティアグループさんへの初めてのインタビューでしたが、我楽多の皆さんが醸し出すあたたかな雰囲気のおかげで、とてもリラックスして普段なかなか聞けない貴重なお話を伺うことができました。

特に最後に言われた「力を入れすぎず、自分がやりたいと思えることから始められたら」という言葉は、これから

ボランティア活動にチャレンジする方々へのなによりの
エールになると感じました。

インタビューにご協力いただいた「我楽多」の皆さん、
また写真撮影を担当していただいた「チームなないろ」の
メンバーさん達、ありがとうございました。

インタビュー協力：人形劇サークル『我楽多』の皆さん

写真撮影：『チームなないろ』の皆さん

記事作成：彦根市社協 地域づくりボランティアセンター

（令和7年8月）